

自校採点を基に、つまずき解消に向けた取組を早期に推進しよう



全国学力・学習状況調査の結果返却は7月末の予定なのに、自校採点をする意味があるの？

自校採点をすることで、児童生徒の学力をすぐに把握できるし、実際
の答案と解説資料を比べて一人一人のつまずきを分析し、学校における児童
生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるためだよ。



自校採点を基に、つまずき解消の取組を図る

1 誤答分析(現状を把握する。)

児童生徒の解答を基に「どこを」「どのように」
間違えたのかを把握し、それは「なぜ」引き起
こされたのかを分析する。

「平成31年度 全国学力・学習状況調査 解説資料」 〇一人一人のつまずきが見える「解答類型」の設定

解答類型	解 説 資 料	設 問
1 [誤答の傾向] 問4の、60、または、90、120について選んでいるもの。 問5 ① 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ② 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ③ 1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いという考えは適切でない。 ④ 1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いという考えは適切である。	1 問4、60、120について選んでいるもの。 問5 ①、②、③については選んでいるもの。 ④については選んでいるもの。	
2 [誤答の傾向] 問4の、60、または、90、120について選んでいるもの。 問5 ① 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ② 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ③ 1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いという考えは適切でない。 ④ 1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いという考えは適切である。	2 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ①、②、③については選んでいるもの。 ④については選んでいるもの。	
3 [誤答の傾向] 問4の、60、または、90、120について選んでいるもの。 問5 ① 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ② 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ③ 1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いという考えは適切でない。 ④ 1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いという考えは適切である。	3 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ①、②、③については選んでいるもの。 ④については選んでいるもの。	
4 [誤答の傾向] 問4の、60、または、90、120について選んでいるもの。 問5 ① 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ② 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ③ 1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いという考えは適切でない。 ④ 1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いという考えは適切である。	4 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ①、②、③については選んでいるもの。 ④については選んでいるもの。	
5 [誤答の傾向] 問4の、60、または、90、120について選んでいるもの。 問5 ① 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ② 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ③ 1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いという考えは適切でない。 ④ 1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いという考えは適切である。	5 1日あたりの読書時間である26分が、1日あたりの読書時間として選んでいるもの。 ①、②、③については選んでいるもの。 ④については選んでいるもの。	

参考：国立教育政策研究所HP

数学の問題を基に、組織で課題共有する例

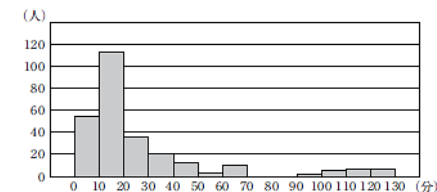
8 (2) 二人は、実施したアンケートをもとに、1日あたりの読書時間について、次のような表とヒストグラムにまとめました。桃子さんが作ったヒストグラムでは、例えば、1日あたりの読書時間が30分以上40分未満だった生徒が20人いたことを表しています。

二人は、上の航平さんが作った表と桃子さんが作ったヒストグラムについて話し合っています。

航平さんが作った表

	平均値	最大値	最小値
1日あたりの読書時間(分)	26.0	120	0

桃子さんが作ったヒストグラム



航平さん「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね。」

桃子さん「でも、ヒストグラムを見ると26分ぐらいの生徒が多いとはいえないのではないかな。」

桃子さんが作ったヒストグラムを見ると、航平さんのように「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ」という考えは適切でないことがわかります。その理由を、桃子さんが作ったヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

このような資料の傾向をとらえたり、説明したりすることは、他教科においても必要なことです。
教科や学年担当だけでなく全教員で解くことで、共通理解を図ることができます。

2 学年団や教科担当で情報共有をする。

把握・分析後、つまずきが見られた設問の解消に向けた手立てを**全教員で考え、共有する。**

【組織で取り組むために、把握すること】

- 〇他教科にも共通する課題は何か。
- 〇系統的な課題は何か。

3 目標と計画、達成を測る検証方法を考える。

長期的な視点で解決を図ることと、今すぐ取り組むべきことを明確にする。そして、具体的な目標と計画を立てる。

【計画する際、決めるべきこと】

- 〇だれが、何を、いつまでに、どのように取り組むか。

達成度を「何で」「どのように」確認するか、**検証方法(Check)**も合わせて提案する。

【短いサイクルで、つまずきを解消するために】

- 〇小テストや単元末テストなどで定着状況確認する。
- 〇補充学習などで、個別に対応する。

→**学力向上担当者を中心に、管理職や学年団、各教科担当とも力を合わせ、チームで取り組んでいきましょう。**

★ 自校採点は、児童生徒の学力の現状を把握・分析する上で、非常に有効です。そこから得られた情報に基づき、つまずき解消に向けた取組につなげていきましょう。